

上越市
都市
景観
デザイン賞
LANDSCAPE DESIGN AWARDS

今年度で第5回目となった上越市都市景観デザイン賞。

上越市内の目にとまった美しい場所、残していきたい景観、誰かに紹介してみたいくなる景観など84点応募があり、7点が入賞しました。

表彰式は1月30日に行われた景観フォーラムで同時開催され、推薦者と建物などの所有者は表彰を受けました。

どなたでも応募できるこの景観デザイン賞、是非あなたも応募してください。次回応募時期は7月の予定。「広報じょうえつ」等でお知らせします。



景観賞「春日神社の参道」春日



景観大賞「やまあいの集落」西横山・小池

受賞して…

景観賞「春日神社の参道」
風間 常樹彦氏

鎮守の森が景観賞をいただき、歴史を継承する者として大変うれしく思っています。

わが祖先がこの地に住んで約千百年、幾多の歴史の変遷を通して守り続けてきたこの景観を誇りに思い過こしています。参拝の方、散歩の人などが杉並木に囲まれた参道を清浄さと清々しい気持ちで歩く姿を大切に、自然と人間が調和できる空間づくり、環境づくりに日々努めています。心洗われるような新緑の春、キラキラ輝く光を遮る清涼さの夏、心に潤いを生む紅葉の秋、白の中に一段と鮮やかな色を配色する冬。春夏秋冬、人々はそれぞれの季節を自分の心に変化を持たせることで、生きることの喜びを感じています。上越市が地球環境問題に目を向け自然を大切にす姿勢に、敬意と感謝の気持ちでいっぱいです。

景観賞「長養館の黒塀」
吉原 耕一氏

一昨年の台風で東側の大櫓が倒れたときに塀なども壊してしまい、その再建にあたり既存の黒板塀(明治25年築)に倣って直したものです。百余年使ってきた建物もあちこちと傷みがきて、特に設備が老朽化してしまい、それらの更新に併せて館内の模様替えを数年掛かりですすめていたところでした。昭和初期の「古く」そして「雁木のある城下町らしく」をめざしています。自分の暮らす町であれば、きれいな町並みや緑の多い街であって欲しいと誰もが思います。今回の受賞は街の構成員として認めていただいたようで嬉しく、またほっとしております。最後に欲深ながら、もっと緑多い、もっときれいな、雁木の町並みに暮らせればと願っております。



景観賞「格子のある家」戸野目

講評 山ノ下 堅一

【景観大賞】
やまあいの集落(西横山・小池)

私たちが忘れていた懐かしい景色がこの林道からの眺めです。上越市の懐の深さを示す大切に守りたい景観です。

【景観賞】
格子のある家(戸野目 小柳医院)

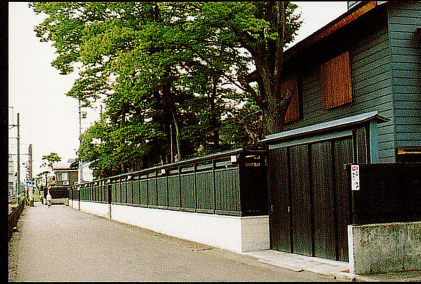
低く連なる雁木の美しさは雪国ならではの情景です。この屋敷を維持しかつ診療を続けている医院に敬意を表するとともに、雁木の保存と再生を住民と共に真剣に考えることが求められています。

はさ木夕景(米岡) (本誌の表紙写真)

久比岐野の四季を彩る農村風景のシンボルであり、日本の米作文化を担ってきたという歴史を無言のうちに語っています。残し伝えていきたい景観として選びました。



景観賞「くわどり湯ったり村」皆口



景観賞「長養館の黒塀」寺町2

春日神社の参道(春日)

「春日神社の参道」に屹立する杉並木と石段など、訪れる人の気持ちを和らげる安らぎの空間を見事に演出していて、神社の由来を感じる歴史的な景観です。

長養館の黒塀(寺町2)

塀越しの樹木や竹藪・垣根は、街並と一体になった季節感のある景観をつくっています。素材と手法に配慮された黒塀をこの周辺の規範として評価しました。

くわどり湯ったり村(皆口)

この看板が今はシンボリックになっていて、この素朴さが訪れた人々に安らぎを与えてくれます。周囲に広がる雪国の豊かな自然環境と人間との関わり方を啓発していくことを考慮した施設整備が望まれます。

【特別賞】

花でつくる城下町・高田の活動
(本町3.4.5丁目商店街振興組合連合会主催)

色とりどりの花のアートで飾り、商店街ににぎわいを創設することにより、中心市街地を活性化する目的で実施されました。今後もこのような活動が市全体に広がっていくことを願っています。



特別賞「花でつくる城下町・高田」の活動
本町3・4・5商店街振興組合連合会

審査を通じて思うこと

国敗山河在(くにやぶれてさんがあり)
関 由有子氏

いつも何気なく見慣れた景色、ある日小さな変化に気付く。「あら、いつ変わったのかしら?」でも、時が移るのにつれて、いつしかそれも心の片隅に追いやられて目立たなくなる。日々の廻りの出来事は、こんな繰り返しの中で緩やかに変貌していくのかもしれない。何十年も離れていた土地に戻った時、何かをきっかけに懐かしい映像



審査の様子



屋外での審査風景(西横山・小池)

が鮮やかに浮かんでくればやはり嬉しいものだ。年を重ねたしるしかもしれないが、セピア色に変色したおばあさんの写真帳を覗くように。街の景観はその土地の生活の匂いとか人々の心模様を映しながら、ゆっくりと刻まれていくのがいいと思う。突然建物が潰され、空気が駐車場になり、看板だけが空しく残ったのは、バブル絶頂期でこりこり。高田の雁木通りも寺町も直江津の浜沿いの界限も、山間の集落やはさ木のある頸城平野の眺めも、唐突なアイディ



表彰式

アで一斬するのではなく、人間の一生よりもはるかに長い時間を想いながら、知恵を出し合っで考えていきたい。

変わる事、変わらない事、変える事、変えない事。詩人の言葉を待つまでもないが、悠久の時の中では大自然の山河すら変貌する。

これからが楽しみな上越市
葦澤 均氏

「景観デザイン賞」の功績は、これまで市内の美しい景観やデザインを見つけ紹介することによって、よい景観をさらに見つけようとする市民の意識を高めてきたことにある。これからは「見つける」から「創造する」「計画的にデザインする」へのステップアップが大切になってくるので、景観条例に寄せる期待には大きいものがある。

しかし私は、条例とは違う意味で効力をもつものがあると思う。それは「よさ」を積極的に認め合う一人一人の生活スタイルである。美しいものやよいデザインに、はっきりと「よい」と言い、それをいろいろなものを選ぶときの基準にするということである(逆に言えば、景観や美を考慮しないものは認めたくないということになっていくから、デザインする側には切実な問題になる)。そして行政には広報で「月間景観デザイン賞」のスペースを作ることを提案する。投稿し、紹介される、自分も探す、創造のヒントにするなどそのすべてが喜びにつながり、この内側から暖まっていくようなものがあれば市民一人一人の意識が高まる。北風の強い季節でも、美しい景観やよいデザインを通じて街も心も暖まるような上越市に近づいてきている。



審査員と受賞者の皆さん

平成11年度上越市都市景観デザイン賞 (応募総数84点)

| | 表彰景観 | 受賞者/推薦者 | 受賞者/所有者 |
|------|-------------|------------------|--------------|
| 景観大賞 | 「やまあいの集落」 | 川瀬 裕之 | 西横山・小池町内会 |
| | 「格子のある家」 | 川上 弘 | 小柳医院 |
| | 「はさ木夕景」 | 川上 弘 | 米岡町内会 |
| 景観賞 | 「春日神社の参道」 | 川瀬 裕之 | 春日神社 |
| | 「長養館の黒塀」 | 田崎 秀尚 | 長養館 |
| | 「くわどり湯ったり村」 | 深井 豊子 | リフレ上越山里振興(株) |
| | 特別賞 | 「花でつくる城下町・高田」の活動 | |

審査委員

- 山ノ下 堅一氏 上越教育大学芸術系美術講座教授
- 廣田 敏郎氏 新潟県建築士会上越支部長/高田工業高校教諭
- 齊藤 博氏 上越市建築設計協同組合代表理事
- 関 由有子氏 NPO法人 木と遊ぶ研究所代表
- 葦澤 均氏 上越教育大学院生 学校教育研究員